



団体助成金 情報

つながろう、心で 広げよう、笑顔の助け合い！ 「地域助け合い基金」

どんな状況でも、誰もが安心して暮らせるように地域で助けあうために、「公益財団法人さわやか福祉財団」が用意している基金です。

買い物や食事など生活に困っている方々を助ける市民活動団体に活動資金を提供して、コロナ禍の今も、そして平時の生活に戻った後も、困った時にはいつでも助けあいの力が発揮されるように、地域の助けあい活動を築いていきます。

コロナ禍対応助成(当分の間、優先配分)		共生社会推進助成
コロナ禍により被災した助けあい活動の被害額の支援(活動関係者が自ら補填する額)	コロナ禍により生じた生活上の不便・不安を解消するための助けあい活動	地域の助けあいを維持・発展する活動(新たに団体を設立する場合、または新たに活動を広げる場合等)
上限 20万円	上限 10万円	上限 15万円

- 対象団体** (グループを含みます) 非営利の組織であること。(自治会・町内会、地域の住民グループ等) ※法人格の有無は問いませんが、個人の活動は申請できません。
- 対象活動** 地域で暮らす人同士の助けあい活動。(つながりづくりを目的とした居場所・通いの場を含む) ※特定分野の制限はありませんが、日本国内の活動に限ります。
1 団体で上記、複数の活動をまとめて、あるいはその都度申請することが可能です。

申込締切 令和3年 3/31(水)

問合せ 公益財団法人さわやか福祉財団 〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館7階 TEL 03-5470-7751 FAX 03-5470-7755



地域連携ステーション フミコムのどっとフミコムでは、ボランティア情報やワークショップ・イベント、文京区で活動されている団体の紹介など、様々な地域活動の最新情報を見ることができます。気になる情報は、どっとフミコムのサイトでチェックしてみてください！



http://d-fumi.com

ご相談 ください

ボランティアに関心がある方、興味を持った方、

- やってみたい!
- してほしい
- 話を聞きたい!

など、ボランティアについての質問や問合せ、ご相談を下記、文京ボランティア支援センターまでご連絡ください。

ぼらんていあ ニュース

あなたらしく。 はじめる、つながる。 きっかけ応援誌！

TOPICS

- 1 自宅に居ながら始められるボランティア&寄付
- 2 マスクボランティアのご報告
- 3 「活動できない」を「できる」に変える！
- 4 地域助け合い基金について

ご自由にお持ちください TAKE FREE

この夏 自宅に居ながら始められるボランティア&寄付

自宅のできるボランティアってありますか？

ありますよ！ 手作りマスクボランティアはどうですか？

マスクが足りないから助かります。

必要な人がいるなら、参加してみます！

ほかにも、消毒で使うウエス(使い捨て雑巾)の手作りボランティアも募集していますよ。

タオルのリユースにもなるので良いですね。

地域の施設で使えるので、それは嬉しいです。

手作りは苦手なのですが、私も何か役に立てますか？

もちろんです！ 手作りではなく未使用のマスクなどでも良いですし、寄付や募金へのご協力もお待ちしておりますよ。

家に居ても、ボランティアや寄付を通じて誰かとつながれるんですね。早速はじめてみます！

次は、私も参加してみます！ ^^

ありがとうございます がんばります

やりたい、やってほしいボランティアがあれば、いつでもご相談ください！

「夏のボランティア体験教室 2020」 中止のお知らせ

楽しみにされていた方、本当に申し訳ありません。

文京ボランティア支援センターでは、ボランティア活動への関心を深め、ボランティア活動をはじめるきっかけづくりを目的に、例年7月下旬から9月上旬までの期間にボランティアを体験する「夏のボランティア体験教室」を実施しています。ところが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ご協力いただいている施設等が例年どおりにボランティアを受け入れられない状況にあることや参加者、関係者の健康・安全を考慮し、中止することといたしました。



「何かしてみたい」「何かできそう」と思ったら、下記までご連絡をお願いいたします。個別に対応をさせていただきます。

今できること 「何かしたい」の想いが形に

マスクボランティア

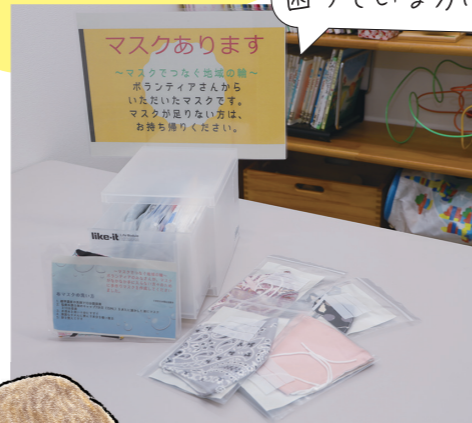
◆ きっかけは「自宅で何かできませんか？」の声でした。

外出自粛下の4月、在宅や自宅待機、学校休校中の方々から、こんな時だからこそできることはないか、自宅でボランティアできないかという声が届きました。



そこで、「何かしたい」という皆さまの思いを形にするため、自宅でできるマスクボランティアを実施しました。

マスクが手に入らなくて困っている方に。



◆ 3週間で2,000枚以上。

全国各地からたくさんのボランティアの方々にご賛同・ご参加をいただき、オリジナルの手作りマスク、未使用のマスクなど、毎日さまざまなマスクが届きました。



送っていただいたマスクは、消毒して個包装、来所者の方や地域活動をされている方などへお渡ししました。



子ども用のマスクが手に入らないから、助かりました！

◆ 送ってくださった皆さまの気持ちも届けます。

心のこもったお手紙を添えてくださる方、趣味の手芸を活かしてくれた高校生や、おばあちゃんと一緒に服をリメイクして手作りしてくれた小学生。「みんなの役に立てたらうれしい」「笑顔をたくさんみたいなあ」など、皆さまからの声に、職員一同はとても温かい気持ちでいっぱいになりました。送ってくださった皆さまの気持ちも一緒にお届けできたら何よりです。

今後も、皆さまの「何かしたい」の気持ちとともに、形にしていきたいと思っています。

ご賛同・ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました！



今できること 食でつながるささえあい

文京フードパントリー

◆ 食料やお菓子などを無料で提供する、「文京フードパントリー」を実施しました。

これは、賞味期限を数カ月残している備蓄食料(入替のために過剰になったものなど)や、お店を閉めてしまったために余っているお菓子などの寄付が寄せられたものです。「コロナウイルスの影響を受けていて食料の必要な方に渡してほしい」という寄付者の意向に沿う形で実現しました。「届けたい」想いを対象の方につなげていくという点では、上のマスクボランティアと同様の取り組みです。

フードパントリーは、食品支援が必要な時に、誰でも食品が受け取れる場所です。



EYES ON 特集

「活動できない」を「できる」に変える！

傾聴ボランティアの会「ぞうの耳」の皆さまの新たな取り組み

今まで当たり前のように実施できていたボランティア活動。コロナ禍によって、思うような活動ができない状況が続いています。そのような中、

できることは何かないか？

どのように活動すれば？

何から始めれば？

多くのボランティア団体から、このような声が数多く集まりました。

このような時でも新たな「当たり前」を見つけていきながら、活動できないとあきらめるのではなく、「こうすればできる」に変える方法を探ります。

団体が動き出せないと対外的なボランティア活動を行うことができず、結果的に今まで実施していたボランティアを断念せざるを得ないということになりかねません。具体的な活動の前に、ボランティアメンバー同士の会議などから再開することをお考えの団体も多いと思います。

三密を防ぐとなると、なかなか集まらない。

活動を再開するにはどうすれば？

今回、傾聴ボランティアの会「ぞうの耳」の方々から、このようなご相談をいただきました。

FOCUS ON

「ぞうの耳」では、1箇所に集まらなくても活動の計画などを話しあえるという利点から、オンラインでの会議を試してみることにになりました。パソコンや携帯のカメラ機能を使い、自宅にいてもお互いに顔を見ながら、安心して話すことができるのがオンライン会議の良い点です。オンライン会議とはどのようなものなのか、自分ができて他のメンバーに伝えることはできるのか……。不安もありながら実際に試してみた感想をうかがいました。

ボタンを押していくだけなので、思ったよりも簡単！

第2波、第3波と不安な中でも安心して話せますね。

ほかのメンバーにも伝えながら、自分たちで使いこなせるようにしていきたいです。



アプリが入っていたけれど気付いていませんでした……。

みんなの表情もよくわかるし、声もよく聞こえる。

そんなに手間なく始めることができました！

聞きなれない用語や、今まで使うことのなかった機能に最初は戸惑う部分もありながら、皆さまが新たな活動に向けて楽しみながら前進している姿が印象的でした。できなかった活動がどのように「できる」に変わっていくのか、『ぼらんていあニュース』では引き続き、「ぞうの耳」の取り組みを追っていきます。新たな時代の新たな「お互いさま」を生み出すためにも欠かせないボランティア活動。ボランティア支援センターは、新たな活動について、皆さまと一緒に考えていきます。